

011

女性達で考える 「避難所で起きる性犯罪対策ミーティング」

取組主体

株式会社のちとぶんか社

従業員数

想定災害

実施地域

5人

全般

東京都

・タブー視されがちな性犯罪・性に関する話題を、災害時における「自分と家族を守る対策」に落とし込んで考えることで、今後期待される避難所のあり方や避難所運営への関わり方等を考える契機を作った。

1 取組の概要

避難所で起きる性犯罪対策ミーティング開催

- ・「文化で、いのちを守る」をコンセプトとして、太鼓を通じた日本文化の企画・発信事業を行う株式会社のちとぶんか社は、2021年にオンライン座談会形式による「避難所で起きる性犯罪対策ミーティング」を開催した。性に関する話題は日本ではタブー視されがちだが、災害時に何が起きうるのかを女性達が自ら知り、不安を共有し、日頃からできる具体的な対策を検討するきっかけとするとともに、防災に関する女性や子どものコミュニティとなった。

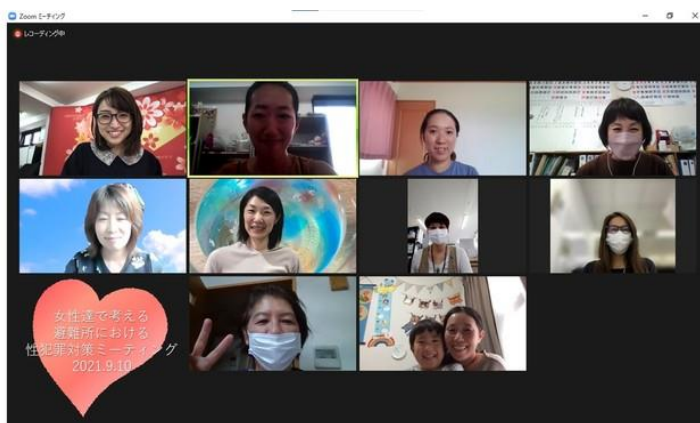
2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

座談会形式の設計

- ・地域において復興支援や防災活動、子ども食堂の運営をしている女性達、子どもカフェ、学校支援員、ママ向け講座を運営している母親達などが、お互いに不安を出しあえることを意識して、座談会形式の設計とした。

参加対象は地域活動の主体となっている女性

- ・参加の声掛け対象は、普段から地域に根差した活動をしている女性達とすることとした。地域とつながっている人ほど周りにも呼びかけやすく、対策へのアクションにつながりやすいという狙いがあった。



性犯罪対策ミーティング

平時の具体的な方策に落とし込む

- ・対策は具体的であることを意識し、日頃からできる具体的な対策に落とし込んだ検討を行った。
- ・例えば、「子どもたちに災害時のリスクを家の中で伝える時間をとること」や「保護者として、保育園や小中学校のPTAなどと協議して、日常から学べる場の創出に向けて動いてみること」などである。

3 取組の効果

- ・同社は避難所運営マニュアルの作成に関するワークショップ等も行っているが、ミーティングの参加者が地区防災計画や地域の防災活動に関わる際に、ミーティングで知ったことを周りの人に伝える行動につながり、防災計画等に女性や子どもの意見を入れ込むことができた。

4 取組への想い

- ・もともとは、百年防災社という会社名で、地域住民の方々との防災ワークショップなどの地域防災活動を実施していた。その後、いのちとぶんか社となり、和太鼓を通じた日本文化の企画・発信事業も新たに取り組み始めた。
- ・和太鼓の演奏は、息づかい、目くばせなど、言語コミュニケーション以外でも共通意識で行動を起こしていく。そのコミュニケーションで共助意識を育てていく過程を経て、防災力向上へとつなげていく取組を行っている。
- ・本取組については、当時4歳の娘を持っていた主催者が、インターネットにあがっていた避難所での性犯罪に関する記事を読んだことがきっかけである。実際に起こりうる性犯罪を想定し、災害時にも避難先で自身と娘を守りたいという思いから、本ミーティングが企画された。

国土強靱化

- ・一方で、起こりうる性犯罪と対策を当事者である母親・女性達や活動の関係者が「知っている」というだけでは犯罪防止にはならない。地域ぐるみで犯罪防止に対する意識を構築することが重要であり、年齢、ジェンダー等、多様な属性の人に知ってもらう機会を今後も作る事が重要と捉えている。

5 防災・減災以外の効果

- ・災害時以外でも子育てや仕事、地域活動における助け合いなどの「お互い様」の関係性を日頃から意識して生活することの機運醸成につながった。
- ・災害時に急に犯罪から人を守るわけではないため、日常の延長線上で「助け・助け合える」一人一人の心がけと周囲の環境づくりが非常に重要だと認識できた。

6 現状の課題・今後の展開等

- ・本取組の実施は、まだ1回のみではあるが、今後継続的に実施していくために、女性を中心とした防災ワークショップを運営するチームの結成を検討している。

7 周囲の声

- ・「犯罪被害から守るために、もっとオープンに性犯罪やジェンダーについて考える場が増えていく必要がありそう。」（ミーティング参加者）
- ・「『防犯・防災は平時から』なので、避難訓練や避難所運営のマニュアル作成の際に、積極的に女性が参加して避難所づくりに関わっていくことの大切さを共有すべきである。」（ミーティング参加者）
- ・「ジェンダー問題の視点からも、障害のある方、学生など若い方、LGBTQの方、ペットを飼っている方、子育て世代から高齢者など、様々な立場の方が地域の防災に関わっていくことも重要。」（ミーティング参加者）
- ・「短期的な対策としては防犯アプリの導入や、避難所でのトイレの場所や構造が閉鎖的になっていないかを確認し、LINEでの相談用グループを作成してみたい。」（ミーティング参加者）
- ・「中期的な対策として、各地域で避難所運営マニュアルを作成する、避難訓練をする際に、世代、ジェンダーを問わずなるべく多くの人に参加してもらう機会を作っていきたい。」（ミーティング参加者）
- ・「これからの若い世代に対しての性教育が社会を変えるきっかけになると思う。」（ミーティング参加者）

担当者の声

- ・本ミーティングを通して、性に関する問題は日本の中ではタブー視されていること、「恥ずかしいもの」という認識が強いことを改めて認識した。女性・男性を問わず性について触れにくい風潮が性犯罪の対策の遅れにつながっているともいえる。
- ・起こりうることへの事前の対策や犯罪が起きにくい環境づくりを日頃から考え、話し合うことができるゆとりや余裕のある時間づくりが必要である。一人一人が意識して行うことから変化の一步を踏み出したいと考えており、本事例集を見た人がまずは生活改善の一步を踏み出してくれることを願う。

問合せ先

株式会社いのちとぶんか社 法人番号：7010001208849
電話番号：090-9995-1692
E-Mail：kasai.yuka@100bou.jp
URL：https://100bou.jp/ 百年防災社（いのちとぶんか社防災事業ページ）

動画

—

サイトURL

